

令和7年度 東京都立八王子北高等学校 学校経営報告



スクール・ミッション

生徒・保護者及び地域の期待と信頼を踏まえながら、確実に進化を続ける中堅校として、変革する未来にたくましく生き抜く人材を輩出するために、自ら学び、考え、挑戦する態度を追及する探究手法を身に付け活用し、社会貢献意識を持って実行し、自己実現を粘り強く図れる、協働力のある人間性豊かな人材を育成します。

1 教育目標

本校の教育目標を踏まえ、地域の信頼と期待に応える中堅校として、グローバル社会で社会貢献し自己実現を図れる、人間性豊かな人材を育成するために、次の4つを教育目標とする。

(1) 自主自律

自ら考え判断し行動できる自主性と創造力を持ち、自立及び自律できる人間を育成する。

(2) 文武両道

誠実で豊かな人間性をもつ知・徳・体の調和のとれた人間を育成する。

(3) 地域貢献

地域を愛し、地域と協働し、誇りをもって地域の良さを発信できる人間を育成する。

(4) 挑戦 ～ 今の自分が 未来を創る ～

自己を信じ、何事にも前向きに取り組み、変革する未来にたくましく生き抜ける人間を育成する。

2 目指す学校

本校の教育目標及び地域の期待を踏まえ、地域の信頼と期待に応える中堅校として、変革する未来に身に付けた探究手法を活用し、社会貢献し、自己実現を図れる、人間性豊かな人材を育成する。

(1) 生徒の可能性を伸ばし、進路実現を図る学校

健全で明るい校風の中で、文武両道に励み、「わかる」を実感させる授業で、基礎学力の定着から「考える」を大切に「できる」までの確かな学力を育成し、生徒の個々の可能性を伸ばす進路指導を丁寧に行い、生徒の希望する進路を実現する学校にする。

(2) 学校教育活動により、自主自律を育成する学校

学校行事や部活動で培われる思いやりや規範意識を重視し、生徒同士がチームとして一体となり部活動と学習の両立を実践しながら、生徒の自主自律の精神を育成する学校にする。

(3) 地域貢献を実践し、自尊意識を高められる学校

学校地域との交流・連携をこれまで以上に深め、達成感や自身の可能性を実感することにより、自尊意識を育成する学校にする。

(4) 新たな時代にたくましく生き抜く人間力を育成する学校

生徒が積極的に挑戦する気概を醸成し、失敗を恥じることなく課題解決のために自ら主体的に考える探究力を身に付け、粘り強く自己実現を図れる人間力を育成する学校にする。

3 今年度の取組み目標と方策

中期的目標の達成に向けて、「チーム八北」が一丸となって、生徒主体の教育活動を展開するための今年度学校経営計画の柱は、次の通りとする。

【目標】

(1) ICTを効果的に活用した教育活動を一層推進する。

一人一台端末を活用した授業改善に取り組み、効果的に基礎学力の定着や学力の向上を図る。また、個別最適な学習が進められるように、「学習支援コンテンツ」を積極的に活用する。

(2) 本校の特色である「国際理解教育」を一層推進する。

グローバル人材の育成に向けて「国際理解教育」を推進し、外国語教育の充実を図る。

(3) 本校の特色である「探究学習」を一層推進する。

「探究学習」をより一層充実させるため、自らの問いに答えを導きだせるようゼミ形式で実施する。探究学習を通して未来を切り開く力を育成するとともに、諸活動を通して都民・地域から信頼される学校づくりを進める。

(4) 健康と安全に関する理解を深め、生涯にわたって健康的な生活を目指す促進事業を推進する。

生涯を通じて生徒が、自らの体力向上や健康・環境を管理し、改善していくための資質・能力を涵養する。

(5) 自他を尊重し、多様な価値観を認め、相手を思いやる敬愛心の育成を推進する。

(6) 教員の資質向上に努める。

相互授業観察や校内研修会を計画的に実施する。また、学校外での各研修への参加を推奨する。

(7) 生徒・教職員にとって安心・安全な学校、働きやすい職場環境の整備を推進する。

4 方策と成果・課題

【方策1】学校全体での広報活動の推進による募集倍率の向上【最重要】

【方策】①ホームページ、X（旧Twitter）の活用

②生徒主体の学校説明会（生徒会・部活動・生徒有志）

③中学校訪問

生徒ボランティア（新入生中学校訪問 等）

④塾訪問

⑤授業公開

【成果と課題】

①ホームページについては、各ページからリンク先の深い部分まで確認し、更新を行った。

ホームページやX（旧Twitter）の更新回数は目標数値に届かなかった。中学生やその保護者が最初に本校を知るスタートがホームページなので、次年度は最新情報の発信をこまめにできるよう、教職員の協力を得ながら推進する。

②学校説明会では、生徒が司会・進行をすることができた。今年度は、説明会の中で、留学や海外派遣研修に参加した生徒の発表を入れることで、本校の国際交流事業に関心を持ってもらうことができた。また、PTA（保護者）による相談コーナーなどの工夫を図った。残念ながら質問される方はいなかったが次年度も継続する。

③全教員で取り組むことを目標に実施。教務部が計画した全96校（昨年度91校）への訪問・案内を行うことができた。また、里帰り訪問や、訪問授業、中学校での講演などを積極的に行った。

④八王子市内の塾に学校案内を配布した。次年度は、発送ではなく、各塾を回って説明できるように取り組む。

⑤年間計画に基づき、授業公開を行った。

◆教職員全員で各募集対策（広報活動）に取り組む体制ができてきている。

◆広報活動の範囲や方法を拡大することで、説明会参加者や本校への来校者数が昨年以上に増加した。

◆授業料免除による私学希望者の増加や中学3年生の減少など、中・長期的な視点を持って広報活動に臨む必要がある。

【方策2】探究学習活動の企画・実践の充実

【方策】①計画的な「総合的な探究の時間」・教科「人間と社会」の実施

ルーブリック評価等の活用による生徒の変容を図る「振り返り」の実施【重要】

②地域活動への協力

小学生・中学生への支援、地元・八王子市民（高齢者）支援、地域防災活動への協力、
防災士の資格取得【重要】

③グローバル探究部の活動推進

「高校生農業応援プロジェクト」の推進【重要】

【成果と課題】

- ①年間計画に基づき、計画的に授業を行えた。評価においても、生徒の変容を見ることができた。
探究学習でのルーブリック評価は難しいが、生徒の変容を受け止めながら実施していく。
- ②・近隣の学校(小学校・中学校)や地域と連携した防災活動(訓練等)を実施することはできなかった。次年度は、
防災士を取得した生徒を、地域と連携活用できるように工夫を図っていく。
・上級救命講習は1年生対象に実施し、資格習得することができた。
上級救命講習を継続していることから、今年度は東京消防庁より表彰された。
- ③昨年度に引き続き、農業応援プロジェクト(稲作体験、トマトケチャップ作り)は他校と連携して実施することが
できた。活動を探究部から全校生徒に広げていけるように、今後も継続発展させる工夫や取り組みが必要である。
- ◆八王子コンソーシアムへの参加や、中学生を招いての探究成果発表会を実施することができた。
八王子市への提言は、市の取組みとして取り入れられている。
- ◆昨年度、地域探究推進校の指定が終わり、今年度から新たに「ハチ北ゼミ」としてスタートした。生徒一人一人の
興味や関心、疑問からゼミ形式で学習を行った。次年度はさらにブラッシュアップして探究の質を高めていく。

【方策3】新教育課程の実施【重要】

- 【方策】**①学習指導(東京都教育ビジョン(第5次)に基づき、とりこぼさない、きめ細やかな指導の推進)
ICT機器を活用した次世代教育の実践【重要】 「学習支援コンテンツ」の有効活用【重要】
アクティブラーニング型授業の推進【重要】 小テストや家庭学習等による成功体験の実践
グランドデザインに基づくルーブリック評価の積極活用
考査等において思考力を問う問題の実施 オンライン英会話の実施
- ②「個別最適化」を図る評価方法の確立
多面的評価に基づく観点別評価の実施【重要】
- ③探究学習活動と進路指導の連携
プレゼンテーション能力の向上

【成果と課題】

- ①・とりこぼさない、きめ細やかな指導の推進は図れた。引き続き丁寧な指導で、次年度も推進していく。
- ・ICTを活用した授業は教員の能力や教科の特性により偏りがある。一人1台端末を使った授業の工夫は引き続き課題であり、活用した授業の工夫が求められる。
 - ・学習コンテンツの活用は、教員による課題配信が行われ一定の活用はできている。生徒が自学(家庭学習等)に積極的に活用するよう教科や学年で組織的に取り組む必要がある。
 - ・アクティブラーニング型授業は取り組んでいる教員は増えているが、教員全体とはなっていない。一斉授業ではなく、生徒参加型の授業の工夫は継続課題である。
 - ・小テストや家庭学習等は各教科・担当教員で取り組めており、一定の効果を得ている教科(科目)もある。引き続き小さな成功体験とスモールステップによる基礎学力の定着に取り組む。
 - ・ルーブリック評価は各教科の基準に応じながら適切に行われている。今後、観点別評価の在り方や内容等については振り返りとともに、見直し等、今後に向けて議論を進めていく必要がある。
 - ・相互授業参観を行う教員は増えている。次年度はベテランと若手教員数名のグループを作り、各学期に1回全員が他の先生方の授業参観を行い、授業力向上が図れるように取り組む。
 - ・オンライン英会話は、授業や部活動の中で回数を増やし実施できた。次年度も継続して実施していく。

②「個別最適化」を図る評価方法の確立。

各教科が、観点別評価基準に基づいて適切に評価されている。教育課程の内容等とともにルーブリック評価（観点別評価）について見直しは十分にできなかった。次年度、引き続き検討が必要である。

③今年度より探究は「ハチ北ゼミ」とゼミ形式に変更した。年間計画に基づきながら、探究学習と進路学習を進めることができ、成果を得た。プレゼンテーション能力等、学習を通して基本的な能力の育成が図れた。

◆グランドデザインを作成してから何年も経過している。生徒の実態を踏まえて、改めてグランドデザインやスクールミッションなど、本校の柱の部分を見直す必要がある。今年度は取り組めなかったので、次年度に継続する課題である。

◆本校の生徒の実態や育てたい生徒像に合った教育課程や評価等について、見直しや検討等を行う必要がある。

(方策4) ICT教育推進

【方策】①ICT活用授業推進

②一人一台端末の活用【最重要】

「学習支援コンテンツ」の有効活用【重要】

【成果と課題】

①②ICTを活用した授業は教員の能力や教科の特性によって偏りがあり、まったく活用できていない教員もいる。校内研修等を実施しながら、誰もがICT機器や一人1台端末を活用した授業ができるよう、教員一人一人の能力の向上を図らなければならない。

◆一人1台端末を活用した授業の実践は、引き続き大きな課題である。入学生徒に購入させており、全教員が授業や教育活動の様々な場面で活用工夫が図れるよう、ICTリーダーを中心に工夫を図っていく必要がある。

◆学習コンテンツを利活用する教員が限られている。多くの教員が活用し、学力の向上や家庭学習の充実が図れるように、次年度も取り組んでいく。

(方策5)「国際理解教育」の推進【最重要】

【方策】①グローバルな世界を体感できる「TOKYO GLOBAL GATEWAY事業」に学年行事として参加

②「アジア高校生架け橋プロジェクトプラス」への参加。

③釜山外国語大学校における「夏季語学短期研修」への参加・実施。

④グローバル探究部における「ハングル」学習の充実

⑤各国際交流事業等への積極的な参加

【成果と課題】

①2年生で計画通り実施される。学習プログラムの中では、積極的に会話する生徒の姿を見ることができた。

②1・2年生に各1名の生徒（ドイツ1名、イギリス1名）を受け入れ、約4か月間1・2年生教室で生徒とともに過ごす。英語で会話する生徒も現れ、異文化交流や言語学習（英語）に成果を得た。留学生は、各行事や部活動にも参加し、充実した留学期間となった。

今回は、本校からホストファミリー希望者がいなかった。今後も協力いただける家庭を探していく。

③④1年生5名の生徒が参加し、3週間の語学短期研修を無事に修了する。異文化理解や語学力向上の成果を得た。実施に向けてはハングルサークルにおいて、事前にハングルの勉強会を定期的に行うことができた。

⑤夏休みのTGG宿泊研修に1年生3名が参加。都立高校生等の海外派遣研修（ヨルダン）に3名の生徒が参加。授業や部活動で、計3回のオンライ他国とのオンライン交流を実施した。

◆今年度から、春休みの海外研修旅行をスタートさせたが、参加希望者が少なく、実施することが出来なかった。場所を釜山からソウルに変更し、姉妹校交流なども含めて内容の再検討を行い、次年度の実施に向けて取り組む。

◆昨年度、語学短期研修に参加した生徒が、ハングルでのプレゼンテーションに参加し入賞した。

◆語学短期研修に参加した生徒は、語学力向上に向けて積極的に資格検定を受けている。

◆国際理解教育を本校の特色の1つとして、今後も継続・発展させていく。

(方策6) 3年間を見据えた進路指導の充実

【方策】①家庭学習時間の確保【重要】

「学習支援コンテンツ」の有効活用

②学校全体での生徒の可能性を伸ばす進路支援の充実【最重要】

教員全身体制での夏期・冬期講習会の充実

大学受験講座、小論文対策、面接対策、就職対策、基礎講座、教養講座、資格取得対策等、勉強合宿(学年)、八北ゼミ等の実施

③キャリアパスポートとしてのポートフォリオを利用した「個」に応じた指導の確立(学年と連携)

【成果と課題】

①学習支援コンテンツを活用した課題配信や各教科・科目による宿題等、家庭学習時間の確保への取組は行われたが、活用する教科や教員にかたよりがあった。また、平日家庭学習1時間以上の割合は前年度よりも低い状況であり、日々の家庭学習時間の確保や習慣作りは、引き続き課題である。

②進路指導や支援の充実は、進路部中心に教員全身体制で取り組むことができた。長期休業中の講習は教職員全員が設定し、43講座設定することができた。しかし応募者がいなく開講できない講座があった。全教員による多様な講座設定と、生徒の主体的な講習参加が課題である。3年生勉強会、面接練習や小論文指導、各対策講座等はそれぞれの先生方が積極的に実施した。英語検定や漢字検定等は、教科が中心となって実施し、資格取得を推進した。

③ポートフォリオを利用した「個」に応じた指導の確率は引き続き課題である。

◆自分事として意識して捉え、様々な進路行事を通して進路目標を具体的に持たせることができるか、教員側の仕掛けとサポートが重要となってくる。進路指導部と学年の連携を密に一層の充実に向けて取り組んでいかななくてはならない。

◆各講習や対策講座など、引き続き全身体制でのぞみ、生徒の進路実現を図っていく。

◆漢字検定や英検などの資格検定を、希望者ではなくて学年単位で実施できないか検討していく。

(方策7) 生活指導

【方策】①基本的な生活習慣の確立

遅刻を減らす組織的な取組みの強化【最重要】

②生徒が主体となる事の充実

学校行事・生徒会・部活動・委員会活動の充実【重要】

ルーブリック評価等の活用による生徒の変容を図る行事の「振り返り」の実施【実施】

行事検討委員会を設置し、組織的な取組みの強化

感染症対策、熱中症対策等、実施の工夫を図る。

オリンピック 2020 レガシー

生徒会・部活動・委員会活動による地域の小学生・中学生への地域貢献(学校公開・部活動体験等の参加)

③安全指導の徹底

学校サポートチームの活用 防災教育の計画的な実施 いじめ未然防止・早期発見・早期対応【重要】

SNSトラブルの対応(八王子北高等学校 SNS ルール)【重要】

登下校中の自転車事故の未然防止(特にヘルメット着用義務について)【最重要】

部活動中における怪我の防止(未然防止対策の充実)

④校則

オフィシャルに即した着こなしの定着化【重要】

⑤挨拶指導の慣行による規範意識の醸成化

【成果と課題】

①基本的な生活習慣の確率に向けて取り組むが、特に遅刻回数の減少は目標回数を下回ることはできず、引き続き大きな課題である生活指導部と学年が連携し、学校全体での取り組みとして実行していく。

- ②・各行事については計画的に、生徒主体に実施できるように働きかけ実施することができた。また、感染症や熱中症、生徒の健康管理・安全配慮等は十分に図ることができ、大きな事故等は起こらなかった。
 - ・ルーブリック評価等を活用した、生徒の変容を図る振り返りは実施できなかった。行事をやりっぱなしにせず、振り返り等の実施は次年度の課題である。
 - ・文化祭の公開、授業公開、部活動体験等は計画的に実施でき、中学生の参加を得られた。募集対策の必でもあるので、魅力発信に今後も務めていく。
 - ・感染症については、インフルエンザ感染者が多くなったクラスもあったが、学級閉鎖等を行わずに学校運営ができた。日頃から手洗い等の習慣化や、教室等の空気の入替えなど、感染症対策を行っていく。
- ③・ヘルメットの着用については、10月から朝の登校時指導（校門指導）を開始した。これにより、所持率、着用率が上がった。新年度も引き続き学校としての取り組みとして継続していく。
 - ・自転車のルールが4月から改正される。3学期中および新入生は招集日に周知徹底を図る。
 - ・いじめや体罰等については、アンケート調査などを実施し、早期発見や早期対応に努めた。今年度のいじめや体罰は0件であった。
 - ・防災教育は計画に基づき、避難訓練や防災講話、マイタイムライン等を活用しながら学習することができた。また、地域と連携した防災訓練も今年度より実施を開始した。次年度に向けて、再度内容を検討していく。
 - ・上級救命講習は1年生で実施。長年の取り組みから、東京消防庁より表彰を受けた。
 - ・SNSの不適切な使用による指導が増えている。八王子北高等学校SNSルールを再度見直し、生徒への指導を徹底していく。
- ④・儀式等でのオフィシャルに即した制服の着こなしは改善されてきている。引き続き学校全体で統一した指導を行っている。
 - ・制服の更新に伴い、制服の組み合わせやハーフパンツの導入等を検討した。
- ⑤生徒会を中心に、朝の挨拶運動が行われた。引き続き、生徒や教員による朝の挨拶運動を継続していく。
- ◆基本的な生活習慣の確立等、生活指導は学校全体が共通理解のもと、一人ひとりの教員が、学校生活の様々な場面で取り組んでいく必要がある。教員間や学年間などでの指導の差を生じさせないように、生活指導部中心に取り組んでいく。

（方策8）教育相談・保健指導（心と体の健康づくり）

【方策】①生涯の健康に関する理解促進事業の推進

産婦人科医を招聘した、ライフプランと健康との関りに関する公開授業の実施

②自立支援チーム、ユースソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携【重要】

③教育相談の持つ予防・開発的側面と問題解決的側面の充実・推進【最重要】

生命に関する事故の防止 教員のカウンセリングマインドの育成

④コンディションレポートによる心身の健康観察【重要】

⑤熱中症対策・アレルギー対策等

⑥教育活動中における怪我発生時の緊急対応

【成果と課題】

- ①計画的に公開授業を実施し、正しい知識を学ぶと共に、生徒の健康等への意識を高めることができた。
- ②③・教育相談等による生徒の支援は、保健部を中心に情報共有を図り、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーと連携しながら取り組むことができた。
 - ・保健部会で報告する生徒数が昨年より増加している。課題を抱える生徒が増えており、組織的な対応がより一層求められてきている。
- ④計画的に実施し、生徒理解は支援の必要な生徒の早期把握に役立っている。生徒の回答率をあげ、悩みや不安を抱える生徒の把握に努め、早期対応ができるようにしたい。
- ⑤教員向けの熱中症対策、アレルギー対策（エピペン）、心肺蘇生（AED操作）の講習会を実施。次年度もけいかくし、

先生方のスキルアップにつなげていく。

また、グラウンド等にテントを設置したり、夏休み中はクールダウン用の部屋を用意したりと対策を講じた。

⑥養護教諭を中心に、適切に対応を行うことができた。引き続き、教員一人ひとりが適切に対応できるよう、けがや緊急時の対応の周知徹底を図っていく。

◆様々な課題を抱えている生徒が在籍している。情報の共有だけでなく、次年度はケース会議等も行いながら支援体制の強化を図りたい。

◆児童相談所や子ども家庭センターと連携をとる事案が増えている。引き続き、丁寧な対応に心がけていく。

◆教員の教育相談や特別支援教育などの知識や能力向上に向け、研修等を実施する。

今年度は、教育相談の基礎知識や発達障害の基礎知識、ケース会議などを行い、教員の指導力の向上に努めた。

(方策9) 学年

【方策】 ①生活指導（生活指導部との連携による基本的な生活習慣の確立）

集団生活を通じた規範意識の醸成

遅刻を減らす組織的な取り組みの強化【最重要】

オフィシャルに即した着こなしの定着化【重要】

登下校中の自転車事故の未然防止（特にヘルメット着用義務について）【最重要】

②感染症対策を講じた学校行事の実施

TGG（東京グローバルゲートウェイ）、修学旅行、遠足の実施

③進路指導（進路指導部との連携による各年次で計画的指導の充実）

進路指導部・教科との連携による家庭学習時間の増加【重要】

キャリアパスポートとしてのポートフォリオを利用した「個」に応じた指導の確立【重要】

【成果と課題】

①・学年と生活指導部が連携を図り、協力して生活指導にあたっている。遅刻やヘルメットなど課題はあり、次年度も連携をとりつつ、学校全体の課題として取り組まなければならない。

・次年度は生活指導部主体で、全学年が定期考査時の正装指導を行っていく。

②計画的に実施することができた。次年度も予防を徹底し、安全な学校行事の実施に向けて取り組む。

③3年間を見据えた年間進路計画に基づいて指導が行われている。次年度も、生徒の実態に応じながら、適切な時期に適切な指導を進路部指導部中心に学年と連携を図りながら実施していく。

家庭学習時間の増加は引き続き課題である。各教科での課題や学習コンテンツの活用など工夫を図っていく。

◆各分掌との連携を密に学年経営を行っていく。

◆保護者会やクラス懇談会などを行い、保護者との連携が図れるようにする。

◆HRや行事などを通して、育てたい力や身につけさせたい力など目標を明確にした学年経営を行っていく、

(方策10) 特別活動

【方策】 ①部活動基本方針に即した生徒の健全育成

②生徒が主体となって運営される学校行事の充実【重要】

③生徒会・委員会活動の一層の推進

【成果と課題】

①各部活動が技術の向上と共に、生徒の健全育成を目的として実施している。部活動加入率が約79%と前年度よりわずかだが上がっている。1年で入部した生徒をやめさせず、継続させることが課題である。

②各行事とも、担当の教員が生徒主体で運営できるよう、計画や支援を行い実施されている。次年度も生徒主体で運営できるよう、計画・実施していく。

③一層の推進に向け、教員の導き・支援が必要である。生徒が主体的に活動できるように工夫し取り組んでいく。

◆引き続き特別活動の目的を理解し、望ましい集団活動を通して生徒の育成を計画的に図っていく。

(方策 11) 教員の資質向上【重要】
【方策】 ①教科を横断した教員相互の授業参観の実施 ②校内研修の実施 ③各研究会や研修センターのプログラムなど、学校外での研修参加を推奨
【成果と課題】 ①多くの先生方が相互の授業参観に取り組んでいる。次年度は、全教員で数名のグループを作り、グループ内での相互参観や振り返りを学期ごとにできるように計画していく。 ②計画的に校内研修を実施することができた。安全面では熱中症、アレルギー対策、心肺蘇生、支援面では教育相談、発達障害、授業面では ICT 機器の活用、進路面では専門学校について等、各分掌を中心に実施した。 また、今年度から若手教員による EVO 研修を実施し、新採教員の育成を図った。 ③各研究会の案内を配布するとともに、研修会等への参加を推奨し、自己研鑽に努めるように働きかけた。 ◆教員の資質向上に向けて、次年度も計画的に研修会を実施する。

(方策 12) 学校運営
【方策】 ①教育公務員としての意識・責任感の醸成と、サービス事故の防止【重要】 ②年休取得や男性の育児参加を推奨し、教職員の健康とライフ・ワーク・バランスに配慮した学校運営を推進 ③教育活動全般について組織的な運営と効率化に努める【最重要】
【成果と課題】 ①教育公務員としての意識・責任感の醸成は図れている。今年度もサービス事故は 0 件であった。引き続き一人一人が意識を高く持って取り組んでいくよう、研修等をまじえながら取り組んでいく。 ②ライフ・ワーク・バランスに配慮した学校運営が行えた。引き続き推進していく。 ③組織的な運営を意識し、効率化に努めているが、業務の偏りやばらつきはいまだ生じている。業務の精選や適正な分担等を図り、PC を活用しながら一層の効率化を目指していく。 ◆教職員が超過勤務月 80 時間以内は 88%、月 45 時間以内は約 57% となり、昨年度より共に下がった。昨年度よりも超過勤務する職員が増えており、次年度は超過勤務時間の削減を目指していく。 ◆一人一人が八王子北高校の経営を担っている意識を持ち、学校運営に取り組んでいくことが大切である。

5 学校評価アンケートより

- 授業に関してわかる授業の実践は生徒、教職員共に 90%超が肯定的な意見となっている。生徒の授業満足度は高い。一方で保護者の肯定的な意見は 40%にとどまっており、わからないという回答も 40%を占めている。授業公開等授業の様子を知らせる機会を設けているが、参加者も少なく実際には授業の様子を伝えきれていない部分もある。広く周知し保護者に学校の様子を伝えていくことが必要である。
- 講習、模試等、進路希望の実現に向けた進路活動について 95%の生徒が満足しており、教員も同様に 90%超がそのような指導ができていると感じている。一方保護者は 80%超と概ね好意的に捉えているが、6 年度は 26%、7 年度は 17%の保護者がわからないと答えている。保護者にわかりやすい情報の発信を学年とともにしていく必要がある。
- 基本的な生活習慣について、昨年度と変わらず 70%超の生徒が身につけていると感じており、保護者、教職員も同様である。引き続き将来恥ずかしくない基本的な生活習慣は身につけられるように、引き続き指導していきたい。
- 部活動について昨年度と変わらず 88%の生徒が目標をもって主体的に取り組んでいる。
- 学校行事では生徒、保護者、教職員共に昨年度と変わらず 95%超の生徒が協力して楽しく行われていると回答している。また地域からも昨年度は 67%、今年度 75%と楽しく取り組んでいると評価されている。本校の生徒は行事に対し協力的に取り組んでおり、地域からも評価されている。生徒の主体性や協調性を育む特別活動を今後もより活発にしていきたい。

- 探究学習について生徒は昨年度、今年度共に82%の生徒が活動を通じて考える力が身につけていると回答している。教員も昨年度は82%、今年度は77%が肯定的に回答している。それに対し、保護者は昨年度は50%、今年度は65%と生徒や教員よりも肯定的な回答が少ない。
- 探究学習の中で特に地域探究活動に積極的に取り組んでいるかについては昨年度、今年度共に72%となっている。今年度より、本校の探究学習は大きく変わり、昨年度までの地域に特化した探究学習から、自らの興味関心に応じた探究学習である「ハチ北ゼミ」に変わった。数値としては表れていないが、その活動の中で思考力表現力を養っていききたい。
- 生徒の支援体制として、今年度はSC2名、YSW1名体制となっている。昨年度94%、今年度91%とほとんどの生徒が適切に相談に応じているととらえている。その状況は教員も同様でいずれも90%超の結果となっている。養護教諭、自立支援担当を中心に生徒が安心して通える、悩みを気軽に相談できる体制を構築できている結果ではないかと考える。一方、利用する機会があまりないためわからないと回答する保護者が約30%程度いる。
- 生徒自身が自らの健康について理解しているととらえている生徒は89%から83%と若干低下しているので自己を理解し、健康的に過ごすための健康教育を引き続き実施していくことが大切である。
- いじめの早期発見について昨年度の43%から86%と生徒の大幅に肯定的な回答が増加しており、良い傾向となっている。年3回実施している生活意識調査だけではなく、日常の会話から生徒の変化に気づいていけるように取り組んでいきたい。保護者はわからないと回答している人が40%超を占めているので、保護者への案内をさらにしていきたい。いじめの早期発見は安心安全な学校生活の基盤になるので、保護者、教員が一体となって取り組んでいきたい。
- 本校からの情報発信は生徒、保護者共に75%~85%と肯定的な回答である。今後も本校の魅力を理解していただくための情報発信を継続していきたい。
- 保護者、生徒共に昨年度と同様90%超、八王子北高校に入学してよかったと感じている。また教員も85%超本校で働くことに肯定的に捉えている。生徒、保護者が良かったと思える教育活動を今後も行い、教員自身も本校を働きやすい職場だと思える環境づくりを行っていききたい。

6 今年度の数値目標の達成状況に基づく成果と課題 ※3月6日現在

【 】内は昨年度までの実績値の推移

目標1 計画的な業務遂行により時間外勤務時間45時間以上 **5人以下(月平均)**

⇒45時間以上：11.5人 ⇒80時間以上：2.1人 ⇒100時間以上：2.4人

【45時間以上5人→3人→8.8人 80時間以上：5人→3人→1.3人 100時間以上：→0人→0人→0.1人】

目標2 入学者選抜の最終応募倍率 **推薦 3倍 学力検査 1.25倍** ⇒推薦：2.88倍 学力：1.13倍

【推薦：2.92→3.2→2.82→2.4→3.03】 【学力検査：1.30→1.04→1.30→1.15→1.22】

目標3 広報活動を充実させ、学校説明会の来校者数(中学生、保護者) **2,300人以上** ⇒2,383人

【1153人→2431人→1822人→2045人→2430人】

目標4 本校ホームページ・X(旧Twitter)の充実によりアクセス回数 **700,000回以上** ⇒505,000回

【170,000回→110,000回→609,578回→685,787回→779,000回】

目標5 地域と連携した探究学習活動 **10回** ⇒13回

【9回→11回→15回→9回】

目標6 考査における「思考力」を問う出題割合 **100%** ⇒100%

【75.1%→98.0%→97.6%→96.7%】

目標7 平日家庭学習1時間以上の割合 全学年 **50%** **⇒13.9%**

【20.6%→21.5%→37.9%→22.6%→22.9%】

目標8 夏期・冬期講習会の充実 **40講座・参加人数(延べ) 300名** **⇒43講座 146名**

【37講座・参加人数(延べ) 224名→35講座・参加人数(延べ) 158名→31講座・参加人数(延べ) 146名】

目標9 3年間を見据えた進路指導により

(ア) 大学・短大進学者数 **110人以上** **⇒69名**

【58人→65人→74人→96人→85人】

(イ) 就職率(就職希望者に対して) **100%維持** **⇒100%**

【100%→100%→100%→100%】

(ウ) 進路決定率 **95%** **⇒94.7%**

【93.9%→90.3%→91%】

目標10 資格取得

○日本漢字能力検定：**3級 7名、準2級 5名、2級 2名** **⇒準2級：3名、2級：0名**

【3級 5名→6名→5名、準2級 10名→3名→2名、2級 1名→1名→0名】

○実用英語技能検定：**準2級 16名、2級 3名** **⇒準2級6名、2級：1名**

【3級 4名→3名→6名、準2級 16名→11名→15名、2級 2名→2名→3名】

○世界遺産検定：**4級 3名、3級 3名、2級 2名** **⇒4級：1名、3級：2名、2級：0名**

【4級 1名→0名→0名、3級 1名→2名→0名、2級 0名→1名→0名】

○防災士：**15名** **⇒6名**

【19名→5名→8名】

○上級救命講習：**200名** **⇒190名**

【200名→198名→188名】

目標11 部活動加入率 **80%** **⇒79%**

【74%→79%→78%→78%→74.9%】

目標12 SCやYSWと連携した教育支援を充実させ中途退学生徒 **0人** **⇒0人**

【1人→0人→1人→2人→4人】

目標13 年間遅刻の延べ回数：**各学年 1000回以内 学校全体 3000回以内** **⇒学校全体：5339回**

【学校全体 3963回→4543回→5014回】

目標14 いじめ・体罰 **0件** **⇒0件**

【0件→0件→0件】